

平成25年度から森林整備活動を開始した民間団体の記録

頁	民間団体	活動場所		関係局・署	
		県	市町村	森林管理局	森林管理署
1	一般財団法人 日本森林林業振興会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
		宮城県	名取市	東北局	仙台署
		宮城県	東松島市	東北局	宮城北部署
		福島県	相馬市	関東局	磐城署
11	一般社団法人 日本遊技関連事業協会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
		宮城県	名取市	東北局	仙台署
		宮城県	東松島市	東北局	宮城北部署
14	三陸森の会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
17	仙台市森林アドバイザーの会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
20	特定非営利活動法人 森林との共生を考える会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
23	万里の松原に親しむ会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
27	みどり十字軍	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
30	緑を守り育てる宮城県連絡会議	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
35	明治コンサルタント 株式会社	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
		福島県	相馬市	関東局	磐城署
42	森びとプロジェクト	宮城県	仙台市	東北局	仙台署
		宮城県	名取市	東北局	仙台署
47	ゆりりん愛護会	宮城県	仙台市	東北局	仙台署

- 注：1) 一般財団法人日本森林林業振興会においては、平成25年度から宮城県仙台市で活動を開始し、平成26年度から宮城県名取市で、平成27年度から宮城県東松島市で、平成28年度から東松島市で、平成29年度から仙台市で、平成30年度から東松島市及び福島県相馬市で、令和元年度から仙台市及び相馬市、令和2年度から東松島市でもそれぞれ活動している。
- 2) 一般社団法人日本遊技関連事業協会においては、平成25年度から宮城県仙台市で活動を開始し、平成26年度から宮城県名取市で、平成27年度から宮城県東松島市で、平成28年度から東松島市で、平成29年度から仙台市で、令和元年度から仙台市でもそれぞれ活動している。
- 3) 明治コンサルタント株式会社においては、平成25年に宮城県仙台市で活動を開始し、平成30年度から福島県相馬市でも活動している。
- 4) 森びとプロジェクトにおいては、平成25年度から宮城県仙台市で活動を開始し、平成26年度から宮城県名取市でも活動している。

団体名 一般財団法人 日本森林林業振興会
社会貢献の森の名称 林友の森（名取市、東松島市、仙台市）：①～⑥、⑧、⑩ グリーン・サークルの森（相馬市）：⑦、⑨
活動目標 海岸防災林の役割や重要性を踏まえ、これまで培ってきた森林造成等の専門技術を活かし、被害を受けた海岸防災林の早期の復旧・再生に取り組み、被災地の復興に資する。
活動年度 ①平成 25 年度～ ②平成 26 年度～ ③平成 27 年度～ ④平成 28 年度～ ⑤平成 29 年度～ ⑥、⑦平成 30 年度～ ⑧、⑨令和元年度～ ⑩令和 2 年度～
植栽地区の概要 ①箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.12ha 樹種：抵抗性クロマツ（600 本）、オオヤマザクラ（10 本） ※「三陸森の会」の活動箇所「復興の森」での植栽に参画 ②箇所：宮城県名取市下増田字台林国有林 89 林班い 1 小班 年度：平成 26 年度 面積：0.84ha 樹種：抵抗性クロマツ（4,000 本）

③箇所：宮城県東松島市大曲字新堀向国有林 546 林班チ小班

年度：平成 27 年度

面積：0.13ha

樹種：抵抗性クロマツ（650 本）

④箇所：宮城県東松島市牛網字大浮足国有林 548 林班い 1 小班

年度：平成 28 年度

面積：0.29ha

樹種：抵抗性クロマツ（1,450 本）、オオヤマザクラ（5 本）

⑤箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字田ノ神国有林 88 林班ハ 2 小班ほか

年度：平成 29 年度

面積：0.26ha

樹種：抵抗性クロマツ（1,300 本）、オオヤマザクラ（10 本）

⑥箇所：宮城県東松島市矢本字浜須賀松国有林 546 林班ル小班

年度：平成 30 年度

面積：0.39ha

樹種：抵抗性クロマツ（2,050 本）、オオヤマザクラ（10 本）

⑦箇所：福島県相馬市磯部字大洲国有林 2263 林班う 1 小班

年度：平成 30 年度

面積：0.30ha

樹種：抵抗性クロマツ（1,575 本）

⑧箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字北山国有林 87 林班ヨ 1 小班

年度：令和元年度

面積：0.11ha

樹種：抵抗性クロマツ（500 本）、オオヤマザクラ（10 本）

⑨箇所：福島県相馬市磯部字大洲国有林 2263 林班う 1 小班

年度：令和元年度

面積：0.12ha

樹種：抵抗性クロマツ（600 本）

⑩箇所：宮城県東松島市矢本字浜須賀松国有林 546 林班い 1 小班

年度：令和 2 年度

面積：0.21ha

樹種：抵抗性クロマツ（1,100 本）

活動概要

当会は、森林・林業の振興を通じて国民生活の向上及び国民経済の発展に寄与することを目的としており、林野庁による活動希望者の公募に応募し、平成 26 年度からの全ての事業期間において、関係森林管理署と「社会貢献の森」の協定を締結し、東日本大震災で被災した海岸防災林の再生活動に取り組んでいます。

東北森林管理局が行った初回公募では、「三陸森の会復興の森」の植樹活動に参画するとともに、第 2 回公募からは、当会が主体となり、「林友の森」として、宮城県仙台市、名取市、東松島市において植樹活動及び保育活動を実施しています。

この宮城県における植樹活動には、当会のほか、三陸森の会、キリンビール（株）仙台工場、宮城県農業高等学校等から毎年 100 名～200 名が参加するなど、幅広い関係者の参加と協力を得て海岸防災林の再生活動を進めてきています。

海岸防災林の造成には、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツを植樹するとともに、キリンビール（株）仙台工場から提供されたバイオテクノロジーを活用して培養されたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツや、宮城県農業高校で育てられた耐塩性のオオヤマザクラも植樹しています。

また、平成 30 年度からは、関東森林管理局が行った活動希望者の公募に応募し、福島県相馬市の松川浦海岸においても抵抗性クロマツ・コンテナ苗の植樹活動等を実施しています。

この活動は、「よみがえれマツ林」と題して、当会の森林環境教育活動であるグリーン・サークルの会員や林業関係団体の有志とともにいき、毎年約 60 名が参加しています。

なお、平成 30 年 6 月に福島県で開催された第 69 回全国植樹祭において、天皇陛下（現上皇陛下）が新たな海岸防災林となるクロマツなどの苗木をお手植えされ、その様子を詠まれた御製「生い立ちて 防災林に育てよと クロマツを植う 福島に」を宮内庁を通じて福島県に寄せられたことに思いを寄せ、平成 31 年度の植樹活動を「天皇陛下御在位三十年記念造林」と位置付けて実施しました。

1. 活動への感想

植樹活動の参加者は、東日本大震災の被災当時のことに思いを寄せながら、植え付けたクロマツが将来は立派な海岸防災林に育ってほしいとの願いを込めて、一本一本ていねいに植え付けをしていました。

参加者からは、「海岸防災林の役割を改めて認識した」、「未来のために少しでも貢献できれば」、「清々しく充実した気分になれた」、「以前に植えたマツが順調に生育している様子を見て嬉しかった」、「また参加したい」等の感想が聞かれました。

2. 活動にあたっての工夫

植栽樹種は、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツのコンテナ苗を基本とし、地元の林業事業体等を通じて入手した苗木のほか、参加企業であるキリンビール（株）のバイオ増殖技術を用いて育成された抵抗性クロマツ苗も一部用いました。また、クロマツだけではなく、花の咲く樹木として耐塩性のオオヤマザクラを宮城県立農業高等学校の協力により植樹しています。さらに、苗木代の一部について「緑の募金公募事業」の助成を受けました。

植付後の活着率を高める工夫として、宮城県の活動地では植え付け時にバーク堆肥を施すとともに、植え付け後の生育状況により施肥を適宜行っています。また、相馬市の植樹箇所においては、植え付け前にコンテナ苗の根鉢を「保水剤＋液肥の700倍希釈液」に浸して植栽するとともに、育樹マットを敷設して根の保護を行ったところ、2年経過後の生存率は97.5%と良好でした。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

海岸防災林を再生していく活動は息の長い取り組みですので、植栽後の保育や管理をきちんと行っていくことが、植栽と同様に大切だと考えています。

各植樹区域について、管轄森林管理署長と5年間又は10年間の活動計画を記載した協定書を締結していますので、これに基づき、今後も見回りを欠かさず行うとともに、適時、下刈、クズ対策・つる切の保育や管理等の手入りを徹底して行うこととし、保育等の実施に当たっては、植樹の協力者であるキリンビール（株）仙台工場等にも参加していただき、森林教室を開催するなどして海岸防災林の役割や復旧状況の理解を深めていきたい。

4. 海岸防災林への期待

植付本数は、森林管理局の指導を踏まえ5,000本/haとしており、コンテナ苗を用いたところ活着率も良好でした。このまま、苗木が成長していくと、早晩、密度管理が必要になると考えていますので、密度管理のあり方や技術が今後の課題だと考えます。このため、国有林において海岸防災林の再生に係る技術課題として、よりよい手法について普及していただくことを期待しています。

当会も参画して植え付けた抵抗性クロマツや耐塩性オオヤマザクラが、将来は立派な海岸防災林に育ち、人々の暮らしや地域の生態系を守り育んでいくことを願っています。

5. 活動状況

【林友の森】



林友の森の標柱 平成31年
⑦仙台市



標柱設置できました 平成27年
②東松島市



植栽初年度 平成25年
抵抗性クロマツ、オオヤマザクラ
※三陸森の会「復興の森」での植樹に参画



植栽6年後(平成31年、クロマツ)
後方建物は、震災遺構 仙台市立荒浜小学校
※三陸森の会「復興の森」



初めての水やり 平成26年
抵抗性クロマツ
①名取市



植栽5年後(平成31年、クロマツ)
①名取市

【林友の森】



二人でせっせと 平成27年
抵抗性クロマツ
②東松島市



植栽4年後(令和元年、クロマツ)
②東松島市



早く土入れたいな 平成28年
抵抗性クロマツ、オオヤマザクラ
③東松島市



植栽3年後(令和元年、クロマツ)
③東松島市



早く大きくなりますように 平成29年
抵抗性クロマツ オオヤマザクラ
④仙台市



植栽2年後(令和元年、クロマツ)
④仙台市

【林友の森】



キリンビール仙台工場の皆さん平成30年
抵抗性クロマツ オオヤマザクラ
⑤仙台市



植栽1年後(令和元年、キリンビール仙台工
場から提供されたバイテクを活用し増殖さ
れた抵抗性クロマツ)
⑤仙台市



農高生、力が入ります 平成31年
抵抗性クロマツ オオヤマザクラ
⑦仙台市



バイテクの力を見せてくれ
平成31年
⑦仙台市



植栽後 平成31年
宮城県農業高等学校で育てられた
耐塩性サクラをカップルで植樹
⑦仙台市



植栽後8ヶ月後
(令和元年、クロマツ、 オオヤマザクラ)
⑦仙台市

【グリーン・サークルの森】



グリーン・サークルの森
天皇陛下御在位三十年記念造林
⑧相馬市



標識の除幕式の様子
⑧相馬市



平成 30 年 5 月～植栽1カ月後
⑥相馬市



令和元年7月～植栽 15 カ月後
⑥相馬市



植栽を完了して記念撮影
⑧相馬市

団体名 一般社団法人 日本遊技関連事業協会

社会貢献の森の名称

①、②：日遊協 仙台共生の森

③、④：日遊協 共生の森 東松島

⑤、⑥：日遊協 共生の森 仙台

活動目標

当協会では、一般法人移行に伴う公益目的支出計画として、東日本大震災被災地支援活動を掲げている。

現在、被災した海岸防災林の再生活動を中心に計画・実施しており、継続的に参画することを希望し実行している。

活動年度

①平成 25 年度～

②平成 26 年度～

③平成 27 年度～平成 30 年度

④平成 28 年度～

⑤平成 29 年度～

⑥令和元年度～

植栽地区の概要

① 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班

年度：平成 25 年度

面積：0.17ha

樹種：抵抗性クロマツ（770 本）、ヤマザクラ（70 本）

② 箇所：宮城県名取市下増田字台林国有林 89 林班い 2 小班

年度：平成 26 年度

面積：0.17ha

樹種：抵抗性クロマツ（777 本）

- ③箇所：宮城県東松島市大曲字新堀向国有林 546 林班チ小班
年度：平成 27 年度
面積：0.63ha
樹種：抵抗性クロマツ（3,000 本）
※平成 28 年度に抵抗性クロマツ 800 本補植
- ④箇所：宮城県東松島市牛網字大浮足国有林 548 林班い 2 小班
年度：平成 28 年度
面積：0.49ha
樹種：抵抗性クロマツ（2,500 本）
- ⑤箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字田ノ神国有林 88 林班ハ 2 小班ほか
年度：平成 29 年度
面積：0.97ha
樹種：抵抗性クロマツ（4,600 本）
- ⑥箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字北山国有林 87 林班ヨ 1 小班
年度：令和元年度
面積：0.18ha
樹種：抵抗性クロマツ（800 本）

活動概要

東日本大震災被災地支援活動として実施しています。

当協会は全国に支部があることから、それぞれの支部を通じて会員企業へ声を掛け、ボランティア隊を組織して植栽活動・下刈等を実施しています。

また、下刈で手が回らないところについては、宮城県森林インストラクター協会やシルバー人材センターにご協力をお願いして、年 2 回程度実施していただいています。

1. 活動への感想

参加者から、災害の大きさを知ることが出来た、どのような形であれ復興に協力できるのは嬉しい、今後も参加したいといった感想がありました。

主催者としては、ボランティア活動を通じて参加者が災害の恐ろしさ、復興の大変さ、協力して活動する意義などを感じ、視野を広げる良い経験になっていたいただければと考えています。

また、令和2年度は矢本西の植栽が確定しており、植栽後に震災遺構の見学も予定しています。

2. 活動にあたっての工夫

仙台市の荒浜地区、東松島市の矢本地区での海外防災林植栽活動の経験を活かし、ボランティアの募集方法や必要な道具の調達・使い回しなどをスムーズに行えました。

また、埼玉県嵐山町での里山づくりから協力いただいている、埼玉森林サポータークラブの助言を得ながら活動をしています。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

植えて終わりではなく、下刈等を定期的に行い、松が自立するまで継続して参画することを予定しています。

4. 海岸防災林への期待

矢本東では協定期間が短かったということもありますが、松が育つ前に協定を終了された企業・団体があったとお聞きし残念に感じましたので、長期スパンで活動出来るように計画して欲しいと思います。

植栽後に震災遺構の見学を入れたところ、遠方から参加した方から、海岸防災林植栽を行うこととなった大本の東日本大震災のことも学べてよかったという声があったので、東北森林管理局や宮城北部森林管理署などから、そのようなプラスαの場所の発信もあるとありがたいです。

協定敷地内のくずやつるまめは除去できるのですが、敷地外から入り込んでいるものに対しては、根本から対応できないため周辺を整えていただけるとありがたいです。

団体名 三陸森の会
社会貢献の森の名称 三陸森の会復興の森
活動目標 東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧・再生活動は、かつての職場である国有林のOBとして重要で意義あるものであり、在職中の知識や経験等を活かし、当会の森林ボランティア活動として海岸防災林の復旧・再生に参画するものです。
活動年度 平成25年度～
植栽地区の概要 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林87林班ほ 1 小班 年度：平成25年度 面積：0.12ha 樹種：抵抗性クロマツ（600本）、オオヤマザクラ（10本）
活動概要 当会は東北森林管理局管内のうち、青森・岩手・宮城各県に居住する国有林退職者を会員として組織され、山火事防止啓発活動など各種森林ボランティア活動を行っています。東北森林管理局が海岸防災林の復旧・再生に向けた初回の公募に際し、当会の協力支援団体である（一財）日本森林林業振興会青森支部の理解と賛同を得たことから、いち早く応募しました。平成25年春の植樹には、森林ボランティア活動で協力関係にあるキリンビール（株）仙台工場の社員約70名をはじめ、（一財）日本森林林業振興会青森支部、当会会員など総勢110余名が参加したところであり、現在は協定箇所の下刈・つる切の保育や巡視活動を行っています。 また、平成26年からは、（一財）日本森林林業振興会青森支部が海岸防災林の復旧・再生を目指して取り組んでいる「林友の森」の植樹活動に、キリンビール（株）仙台工場と毎年一緒に参加しています。

1. 活動への感想

被災地をかつての職場としていた三陸森の会の会員にとっても、東日本大震災の発生から2年余が経過し、ようやく復興の槌音が聞こえ始めた頃でしたが、活動箇所の荒浜地区の被害の大きさには改めて驚かされました。

また、これまで地域の住民の生活を守り、農業など地域の産業の振興に貢献していた海岸防災林の壊滅的な被災状況を見て、これまで国有林で培った技術をもって、海岸防災林に復旧・再生の活動に貢献する意を新たにしました。

2. 活動にあたっての工夫

植樹を初めて経験されるキリンビール（株）仙台工場の参加者に、模範植樹を行い、会員の指導のもと完熟バーク堆肥の混入、根茎の広がりや踏付けに留意し、最後には参加者が自ら持ち込んだペットボトルの水を植穴に注水するなど一本一本丁寧に植付をした結果、活着は極めて良好で枯損は8本のみでした。

また、苗木は抵抗性クロマツの普通苗（裸苗）の苗齢2～3年生の小苗を使用したことにより、大苗を使用した隣接協定箇所の植栽木との伸長差が大きいことから、林地施肥を行うとともに、クズの侵入蔓延が懸念されたため、下刈時にクズの除去も行いました。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

協定箇所の定期的な巡視活動と下刈・つる切など保育を適時に行い、成林に向けた活動を続けていく考えです。

4. 海岸防災林への期待

当会が、海岸防災林の復旧・再生を目指し植樹した「三陸森の会復興の森」が成林し地域の人々の生活の暮らしに役立つことを願っています。

5. 活動状況



「三陸森の会復興の森」関係者で標柱埋設



植樹指導を真剣に見守る
キリンビール(株)の参加者



会員がスコップで植穴を掘った後
参加者が移植ペラで植付



植付終了後にペットボトルで念のために注水



植栽後 5 年目
後方建物は、震災遺構 仙台市立荒浜小学校



植栽後 7 年目
後方建物は、震災遺構 仙台市立荒浜小学校

団体名	仙台市森林アドバイザーの会
社会貢献の森の名称	もりっとの丘
活動目標	海岸防災林の復旧を通じて被害のあった地域に貢献する。
活動年度	平成 25 年度～
植栽地区の概要	箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.10ha 樹種：抵抗性クロマツ（400 本）、ヤマザクラ（30 本）、コナラ（30 本）
活動概要	平成 24 年の東日本大震災の後、会として何かできないかと模索している中、七ヶ浜の菖蒲田海岸に津波で倒れたクロマツをチェーンソーで玉切りできる団体を探していると聞き、七ヶ浜ボランティア・センターを訪ねたのが始まりでした。8 月から 1 回あたりの参加人数約 20 人でチェーンソー10 台を使用し、計 9 回、倒れたクロマツを玉切りし、菖蒲田浜の復興に貢献しました。 平成 24 年の秋に、海岸防災林再生のため、森林管理局が荒浜の国有地に、クロマツ等の植樹する団体を募集していることを知りました。苗代を会で出すことは困難なので（公社）宮城県緑化推進委員会に相談したら、苗代を緑の募金から出してもらえることになって、当会も手を挙げました。平成 25 年 5 月に植樹し、苗の生育調査、下刈、支柱の打ち込み、移植を数年続け、平成 30 年には下刈が要らないほど生育し、令和元年にはクズの除去を行いました。

1. 活動への感想

当会は健全な森づくり活動と森林ボランティアの指導・育成を実施し、荒れた森林の整備により森林の公益的機能の回復を図り、地球環境保全にも寄与し、植林・下刈・間伐・自然観察・クラフトなど自ら実践し、サポートもするのが会結成の目的です。

今回の地震の後、津波にあった七ヶ浜の海岸防災林の整理を手伝い、植樹もしたいと考えていました。海岸防災林の再生に寄与出来て充実しました。仙台市主催の植樹祭にも市民の指導者として何回も参加しました。

国有林以外にも平成 30 年に宮城県と協定を結び、「もりっとの丘Ⅱ」(1.8ha)に植樹し、海岸防災林の再生に寄与しています。

2. 活動にあたっての工夫

参加者は当会の会員とその家族で、主にクロマツを植え、コナラとヤマザクラも植えました。クロマツは順調に生育しましたが、コナラとヤマザクラは枯れてしまいました。会から支出が困難な苗代は、緑の募金で賄いました。

「もりっとの丘」1箇所だけでなく、名取で再生活動している（公財）オイスカや仙台市主催の植樹祭を手伝い、会として毎年の継続した活動にしています。

前述のように平成 30 年に「もりっとの丘Ⅱ」、令和元年にはみやぎ生活協同組合が植樹した「こーぷの森」の植樹を手伝っています。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

「もりっとの丘」のクロマツは十分に成長していますが、民有林において平成 30 年に植樹した「もりっとの丘Ⅱ」と令和元年の植樹した「こーぷの森」は、数年は下刈が必要なので、継続して実施します。

4. 海岸防災林への期待

海岸防災林となるのは何十年後だと思いますが、その礎に寄与できたことが、会として満足しています。

5. 活動状況



もりっこの丘の看板
(平成 25 年5月 12 日)



植樹後記念写真
(平成 25 年5月 12 日)



植樹後
(平成 25 年5月 12 日)



植樹後 2 年目
(平成 27 年 10 月 25 日)



植樹後 5 年目
(平成 30 年 8 月 25 日)



植樹 5 年目 人の背丈を超えた
クロマツと荒浜小学校 (震災遺稿)

団体名 特定非営利活動法人 森林との共生を考える会																			
社会貢献の森の名称 （名称はありません）																			
活動目標 津波で被災した海岸林を再生し、長期的な視点では海岸林の持つ多様な機能の回復を図るとともに生態系や自然環境の回復を図る。																			
活動年度 平成 25 年度～																			
植栽地区の概要 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.13ha 樹種：抵抗性アカマツ（350 本） 抵抗性クロマツ（300 本） 計 650 本 平成 26 年度以降 抵抗性アカマツが枯れた部分については、ヤマザクラ 7 本、コナラ 3 本、ケヤキ 1 本、ヤマハンノキ 1 本により補植を行った。																			
活動概要 <table border="0"> <tr> <td>平成 25 年</td> <td>植栽及び下刈</td> <td>延 5 日</td> <td rowspan="5">植樹には約 100 名参加</td> </tr> <tr> <td>平成 26～28 年</td> <td>補植及び下刈</td> <td>延 7 日</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年</td> <td>下刈</td> <td>延 3 日</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年</td> <td>下刈及びつる切り</td> <td>延 2 日</td> </tr> <tr> <td>令和元～2 年</td> <td>つる切り</td> <td>延 3 日</td> </tr> </table>				平成 25 年	植栽及び下刈	延 5 日	植樹には約 100 名参加	平成 26～28 年	補植及び下刈	延 7 日	平成 29 年	下刈	延 3 日	平成 30 年	下刈及びつる切り	延 2 日	令和元～2 年	つる切り	延 3 日
平成 25 年	植栽及び下刈	延 5 日	植樹には約 100 名参加																
平成 26～28 年	補植及び下刈	延 7 日																	
平成 29 年	下刈	延 3 日																	
平成 30 年	下刈及びつる切り	延 2 日																	
令和元～2 年	つる切り	延 3 日																	

1. 活動への感想

抵抗性アカマツの活着が思わしくなく、植栽後4年目まで補植を繰り返し苦労しました。アカマツ苗木の根系が貧弱（T/R率が高い）であったことと、苗木の移動時期が11月と遅かったことや、種苗の配布区域が特例で認められた区域であったことなどが原因と考えられました。

2. 活動にあたっての工夫

- ①津波後も残存した海岸防災林を調査し、その復元を基本的な考え方としました。
- ②植栽樹種の選定、植栽密度、植栽方法等については、本会が平成23～26年に三井物産環境基金から助成を得て実施した「海岸林再生のための調査研究」の成果を踏まえて行いました。
- ③植栽に当たっては、植穴に多めの粉炭とバーク堆肥を土と混ぜて植栽したことや苗を植えたまわりにチップ材を敷いたことも保水効果があり、活着後の良好な生長につながったと思われます。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

- ①樹高成長も順調でほぼ成林しつつありますが、林縁の一部でクズが繁茂しマツの梢端まで伸びることもあるので、あと数年つる切りが必要です。
- ②アカマツ、クロマツの枝が管理道路上まで一部張り出しており、枝打ちをしています。今後も枝の除去が必要と思われます。

4. 海岸防災林への期待

- ①長期的には潮害防止、飛砂防止、防風など海岸防災林の多様な機能を期待しています。
- ②ヤマザクラ、コナラ、ケヤキ等を数本植栽しましたが、海岸防災林であっても将来はアカマツやクロマツと広葉樹の混交林に育つことを期待しています。
- ③林床にハマヒルガオ、ウンラン、ハマエンドウなど海岸の植物も見られるので、森林と調和し豊かな生態系を形成してほしいと願っています。

5. 活動状況



写真1 植樹当日(2012年)



写真4 防風柵設置



写真2 植樹当日(2012年)



写真5 会の看板



写真3 苗木



写真6 現在(2020年9月)

団体名 万里の松原に親しむ会
社会貢献の森の名称 万里の森
活動目標 社会貢献としての東日本大震災被災地支援の意義を会員や地域住民が共有できるように、次の目標を定めました。 1 植栽にあたっては、本会の活動の積み重ねを生かし、庄内方式を実践する。（苗木は 25cm 程度、一本当たり丸山三号 8 個と埋わら 200g 程度施す。必要に応じて衝立工を施す。） 2 海岸防災林等の被害状況と海岸防災林の再生状況等を様々な報告会での発表や本会発行の広報紙で地域への発信および防災と環境に関わる学校教育活動への支援などを通じて、被災地支援の意識の共有の輪を広げる。
活動年度 平成 25 年度～
植栽地区の概要 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.11ha 樹種：抵抗性クロマツ（500 本）、オオヤマザクラ（10 本）
活動概要 1 庄内海岸で海岸林保全活動を行っている団体として、「植栽活動に参加出来ないか」との機運が高まり前記の目標を決め参加しました。 2 毎年の一泊研修の中で、現地（万里の森）での保育活動の他、宮城県内（閑上・東松島・石巻など）・陸前高田（岩手県）・松川浦（福島県）など各地の被害状況や復興と海岸防災林の再生状況を学び、発信してきました。また、保育活動や生育調査を

10名程度のスタッフで継続的に実施してきました。

- 3 会員以外との活動として、酒田市立泉小学校の児童との（保育作業と衝立工）、東北公益文科大学の学生、一般公募の参加希望者や地域の希望団体等を現地に案内し、庄内海岸との違いや「津波と海岸林」を主テーマに研修を行い、震災を風化させない活動を実施してきました。行政機関や関係団体が主催する報告会やシンポジウムに参加し、被災状況活動などを発信してきました。
- 4 行政機関や関係団体が主催する報告会やシンポに参加し、被災状況と活動などを発信してきました。
- 5 「万里の森づくり活動」を中心に編集した「広報まつば」を年2回発行し、関係行政機関等に配布するとともに、地域自治会の協力で全戸回覧して活動を発信してきました。

1. 活動への感想

- (1) 当会は「楽しく・生きがい・継続」を活動の基本にするとともに創意工夫を大切にしている中で、社会貢献「万里の森づくり活動」は、新たな視点での活動であり、充実を伴う楽しい活動の実践となり、当会の活性化に繋がりました。
- (2) 海岸防災林が津波から受ける被害の実態、そして減災効果などを被災地で直接見ることができ、庄内海岸林と比較しながら研修に活用したり、海岸防災林造成の歴史を知ることが出来るので、今後の活動に活用したいと考えています。
- (3) 他団体との交流が出来たことも大きな成果でした。

2. 活動にあたっての工夫

遠距離からの活動参加であり、活動資金の確保等が大きな課題でしたが、次の工夫をしながら対応してきました。

- (1) 資金の確保では、①苗木オーナー制度（一口 1,000 円）、②助成金の活用、③植栽時「酒田市のバス利用」、④植栽コストの節減（一本 230 円程度で完了）。
- (2) 長期にわたる活動だけに懸念されることが多かったですが、①一泊研修の中での保育活動の実施、②他団体の参加と小学生との協働、③報告会等への参加、④関係機関からの評価と表彰、⑤広報活動による会員への周知、などにより、万里の森づくり活動が当会の重要な活動の一つになりました。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

令和2年度が最終年度の活動なので、出来る限りの活動を実施して締めくくりたい。さらに、2～3年後に再訪し、「万里の森」の成育状況や海岸防災林全体の再生状況の視察を計画したいと思います。

4. 海岸防災林への期待

各地で団体等が植栽したクロマツが、やがて「南北に連なるクロマツ林帯」として形成され、海岸防災林の機能を発揮している姿を是非、見たいと思います。

5. 活動状況



「万里の森」看板設置 (2013. 4. 10)



「万里の森」看板前にて (2013. 4. 10)



「万里の森」クロマツ植樹 (2013. 4. 10)



クロマツ育樹調査 (2019. 10. 25)



酒田市立泉小学校体験学習 (2014 . 9. 24)



東北公益文科大学（酒田市）研修会
(2018 . 12. 8)

団体名 みどり十字軍
社会貢献の森の名称 おらほのもり (NPO 法人グリーンボランティアみやぎ)
活動目標 地域住民の生活を、風害・潮害から守る防備や環境保全に役立つ森林の機能と効用を、地域の住民と一緒に考えながら海岸防災林の再生につなげる。
活動年度 平成 25 年度～
植栽地区の概要 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.11ha 樹種：抵抗性クロマツ（400 本）、アカマツ（100 本）
活動概要 平成 25 年 4 月に関連ボランティア団体の協力を得て植栽を行い、その後、毎年 6 月～7 月にかけて生育状況の観察と生育を阻害する雑草の刈払い作業を行いました。

1. 活動への感想

目的は果たせたと満足していますが、年を重ねるごとに自然災害に対する意識と共助が低下しており、今後、ボランティア活動としては無理と思っています。

また、

- ①深根性のクロマツを対象とした盛土において、樹命や浅根性の問題が有るとされる広葉樹の植栽、震災で生き残ったクロマツの種から発芽した成長の著しいクロマツと対抗性クロマツの混交がどのように対応するのか。
 - ②密植植林を行ったマツ林において除伐・間伐で伐倒した材の処理の仕方によっては林地が肥よく化し、マツが枯れるおそれがないか。
- といったことに疑問をもちました。

2. 活動にあたっての工夫

植栽や保育などの行為は年度当初の総会などで会員の意見を集約して行いました。植栽樹種の選定は当初国の方針にもとづき決め、苗木の購入は宮城県緑化推進委員会に相談し、地元農業協同組合から購入しました。

一般ボランティアでは、資金面や交通および苗木・必要物品の調達などに問題があり、海岸防災林の永続的な活動は無理と思われます。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

行政や公共企業体などで実施する海岸防災林再生植樹活動には、積極的に参加する予定です。独自活動は当初の目的は果たしたと思われるので行いません。

4. 海岸防災林への期待

災害を受けた住民が高台に居住を求めたり、農産物の栽培もパイプハウスなど人工的につくられた建造物の中で生産されるなど、風害、潮害の功果は薄れつつあるのではないかと考えています。

5. 活動状況



植栽地に設置した標柱(平成 30 年7月)



標柱前での活動会員(令和2年6月)



雑草類の除去作業その1(平成 30 年7月)



雑草類の除去作業その2(平成 30 年7月)



雑草類の除去作業その3(令和2年6月)



雑草類の除去作業その4(令和2年6月)

団体名	緑を守り育てる宮城県連絡会議
社会貢献の森の名称	あらはま懸け橋の森
活動目標	東日本大震災において壊滅的被害を受けた海岸林と海浜植物の復旧再生事業に寄与したい。同時に 森林 づくり活動を地域住民・市民・会員など参加型で築き上げ、貴重な緑の財産を次の世代に引き継ぎたい。
活動年度	平成 25 年度～
植栽地区の概要	箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.12ha 樹種：抵抗性クロマツ（550 本）
活動概要	・平成 25 年 5 月 19 日：市民約 100 名が参加して抵抗性クロマツ 550 本を植栽（緑の募金活動助成を受けて実施）。 ・平成 25 年 12 月：宮城県と荒浜希少動植物種保全対策事業委託契約を締結しました。これに基づき平成 26 年 1 月 20～21 日、23～24 日の 4 日間で延べ 81 名により、ウンラン、ハマニガナなど 10 種類の植物を土嚢袋 700 袋に採取し、仮植しました。同年 4 月 11～13 日の 3 日間で仮植地から荒浜海岸の仙台市市有林に本移植を実施しました。同年 6 月 13 日東日本大震災の津波で大きな打撃を受けた仙台東部海岸砂丘の清掃活動を市民 78 名の参加で実施（国交省の協力を得て実施）。 ・植栽後：毎年、生育調査、除草・つる切り、枝打ち作業を年 1～2 回実施。 ・平成 28 年 4 月 1 日：協定を更新（協定期間：平成 28 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）。

- ・「森の案内人養成講座（東北森林管理局 仙台森林管理署後援）」の観察会等の場として利用。
- ・令和元年6月15日：当会創立30周年記念樹を植栽し、記念標柱を設置。（樹種：オオヤマザクラ、産地：福島県、樹齢：6年生、樹高：約6m）

1. 活動への感想

海岸防災林植栽活動に関わって改めて緑の大切さを強く感じました。加えて多くの人々が海岸防災林再生に強い関心を示してくれました。同時に仙台市も独自の活動組織「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」を立ち上げ、多くのボランティア団体や企業、一般市民を巻き込んで植林活動や除草活動を中心とした育樹会を実施しており、マスコミなども大きく取り上げ市民の関心は高まっていると感じます。

2. 活動にあたっての工夫

多くの一般市民や地域住民の方が海岸での活動に参加しやすい工夫をしてきました。

- ・ 参加募集は当会のニュースやホームページ、ブログだけでなく、仙台市の緑のボランティア団体などの協力もいただきました。
- ・ 森の案内人養成講座のカリキュラムに「海浜植物」を取り上げ、海岸防災林の大切さと海浜植物の多様性などについて考える機会を作っています。
- ・ 植栽地の植生調査を実施し、経年変化を調べています。

3. 今後の活動への抱負

今後も、海岸防災林の大切さと重要性について市民の方々にアピールするとともに、次の世代を担う子供たちにも海岸防災林に足を運んでもらう工夫をしていきたいと考えています。

4. 海岸防災林への期待

前代未聞の海岸防災林造成に携われたことは当会にとって大きな財産と考えています。森林管理署としても森林教室などを開き海岸防災林の大切さや重要性について多くの市民や次世代を担う子供たちに参加してもらう仕組みを考えていただきたいと考えています。

5. 活動状況



あらはま懸け橋の森看板設置



集合写真



植栽準備



植栽風景
多くの市民が植栽に参加



植栽初年度
(平成 25 年、抵抗性クロマツ)



第 19 期森の案内人養成講座での活用(2)
(平成 30 年 9 月 9 日)



第 19 期森の案内人養成講座
(平成 30 年 9 月 9 日)



第 20 期森の案内人養成講座
(令和元年 9 月 8 日)



創立 30 周年記念植樹
(令和元年 6 月 15 日)
標識を設置



創立 30 周年記念植樹集合写真
オオヤマザクラを植樹



枝打ち作業
(令和 2 年 9 月 2 日)



枝打ち作業
(令和 2 年 9 月 2 日)

団体名	明治コンサルタント株式会社
社会貢献の森の名称	明治コンサルの森
活動目標	東日本大震災被災地の復興に繋がる社会貢献活動を展開し、被災地の一助となること。
活動年度	① 宮城県仙台市若林区荒浜：平成 25 年度～ ② 福島県相馬市松川浦：平成 30 年度～
植栽地区の概要	① 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.10ha 樹種：抵抗性クロマツ（456 本） ② 箇所：福島県相馬市磯部字大洲国有林 2263 林班う 1 小班 年度：平成 30 年度 面積：0.14ha 樹種：抵抗性クロマツ（735 本）、シダレザクラ等（大苗 3 本）
活動概要	1. 活動の動機 弊社として、東日本大震災被災地の復興に繋がる社会貢献活動を展開したいと考えたため。 2. 概要 ① 宮城県仙台市荒浜 平成 25 年 5 月 21 日、津波で被災し流失した仙台市荒浜の海岸防

災林にクロマツを植栽する「社会貢献の森」活動を行いました。

これは被災した海岸防災林の民間による再生活動を呼び掛けた仙台森林管理署の公募に弊社が応募し、森林管理署と協定を締結して行ったもので、弊社のほかに NPO 法人や森林造成を志す有志の団体など合わせて 14 団体が 14 の区画を割り当てられて行ったものです。

植栽活動には約 0.1ha の被災森林跡地に弊社社員 8 名等が参加し、456 本のクロマツ(マツクイムシ被害抵抗性クロマツ苗)を植栽しました。

② 福島県相馬市松川浦

相馬市の松川浦の海岸防災林も大きな被害を受けて、大面積の海岸林の再生を呼びかけた磐城森林管理署の公募に応募し、当社としては 2 箇所目となる「社会貢献活動の森」活動を行いました。

平成 30 年 4 月 19 日、約 0.14ha の被災森林跡地に弊社社長以下、東京、秋田、北陸、仙台の各支店から社員 17 名が参加して、抵抗性クロマツコンテナ苗 735 本と大苗のシダレザクラ等 3 本を植栽しました。

1. 活動への感想

「津波によって失われた海岸防災林を再生し、維持する」という今回の植栽活動を通じ、企業として行う社会貢献活動がその企業に「社会の一員となっている」という意識を醸成させてくれたと思います。その結果として社会貢献活動により積極的になることができると思います。

2. 活動にあたっての工夫

① 宮城県仙台市荒浜

海岸防災林造成については初めての試みであり、活着が懸念されたので試験的なことを実施しました。その一つとして保水材を用いました。植栽対象地は砂地だったので水分の保持が必要と考えました。いろいろ考えた結果、植栽時には苗木をゲル状の保水材に浸してから植栽し、植栽後には一本一本の苗木に灌水しました。

② 福島県相馬市松川浦

植栽地の土壌が非常に堅固であったので、あらかじめ植穴を開けました。植栽後は一本一本の苗木に施肥をしました。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

宮城県仙台市荒浜での社会貢献活動後、福島県相馬市松川浦での海岸防災林造成にも取り組んでいます。現在は保育活動中ですが、成林まで取り組みたいと思います。

4. 海岸防災林への期待

宮城県仙台市荒浜の海岸防災林は震災遺構となった旧荒浜小学校校舎に隣接しています。校舎には訪問者が絶えず、これらの訪問者が海岸防災林にも注目してくれる工夫をして、更に海岸防災林の宣伝をしてはどうでしょうか。例えば、校舎敷地と荒浜の海岸防災林の境にある堰に橋を架けて訪問者の海岸防災林への動線を作るなど。

5. 活動状況

宮城県仙台市荒浜－ 1



明治コンサルノ森の看板



明治コンサルノ森の看板設置状況



植栽 2 年目
(平成 26 年、クロマツ)



植栽 6 年目
(令和元年 9 月)



下刈作業
(平成 30 年 10 月)



除伐と下刈作業
(平成 30 年 10 月)

宮城県仙台市荒浜－２



除伐作業(平成 30 年 10 月)
繁茂したハギ類を除伐



除伐したハギ類の伐根
3～4本のハギ類がクロマツを被圧



ハギ類の侵入(平成 30 年 9 月)
繁茂したハギ類がクロマツ苗を被圧



スス病の発生(平成 30 年 9 月)
アブラムシが原因。しばらく様子見をしていたところ自然治癒



ツルマメの侵入(令和元年 9 月)
種子が成熟・落下する前に除去。



ツルマメの除去(令和元年 9 月)

福島県相馬市松川浦－ 1



明治コンサルの森の看板



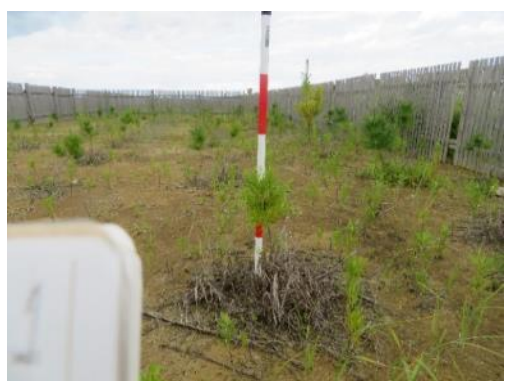
明治コンサルの森の看板設置状況



植栽初年度
(平成 30 年 4 月、クロマツ)



植栽 1 年半後
(令和元年 9 月)



植栽元年半後
(令和 1 年 9 月)
樹高 40 cm 程度



植栽 1 年半後
(令和元年 9 月)
樹高 60 cm 程度まで伸びている

福島県相馬市松川浦一 2



ミーティング風景(平成 30 年 4 月)
植栽作業を前にして作業手順についてのミーティング



植栽作業
(平成 30 年 4 月)



植栽作業
(平成 30 年 4 月)



植栽後の施肥作業
(平成 30 年 4 月)



低木の侵入(令和元年 9 月)
この木は直後に除伐された



排水溝内の水(令和元年 9 月)
植栽地に施工した排水溝にたまった水

団体名	森びとプロジェクト
社会貢献の森の名称	いのちの森
活動目標	海岸防災林の復旧を通じて、人間が森林と暮らしていくための活動を市民参加型で実施し、次世代の子どもたちに生態系豊かな森林を引き継いでいきます。
活動年度	①宮城県仙台市荒浜 平成 25 年度～ ②宮城県名取市台林 平成 26 年度～
植栽地区の概要	① 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 林班ほ 1 小班 年度：平成 25 年度 面積：0.02ha 樹種：カシワ（50 本）、タブノキ（100 本）、イタヤカエデ（50 本）、 クリ（50 本）、ヤマザクラ（50 本）、トベラ（25 本）、 ヒサカキ（25 本）、ケヤキ（50 本）、アキグミ（30 本） ② 箇所：宮城県名取市下増田字台林国有林 89 林班い 2 小班 年度：平成 26 年度 面積：0.06ha 樹種：コナラ、ヤマザクラ、クリ、ケヤキ、タブノキ等（900 本）
活動概要	本物の森、土地本来の木による命を守る森の防潮堤づくりとして、 ～山と心に木を植える～を合言葉に、ドングリを拾って、苗を育て、その苗で森づくりを行っています。 この「森づくり運動」の大きな目的は、森づくりを通じて「自然環境と人間の命を大切にする心を育む」人づくりです。 近い将来、人間が本物の森を再生しなければ、地球上の人間をはじめとした生物の生命が危ぶまれてしまいます。

その要因の多くは人間の傲慢な活動にあります。私たちは、人間をはじめとした生物の生命の危機に対して、今、人間ができることを実践していかなければならないと考えています。

世界の子供たちの未来を見据え「人に優しい自然環境と社会環境」を目指して私たち大人が子供たちとともに、その基盤をしっかりとつくり出していきたいと考えています。

1. 活動への感想

当時、荒浜では盛土を掘って調べたところ地中1 m以上も砂であったため、黒土や腐葉土、炭等を混ぜ土壌づくりをしました。名取では土壌の水はけが悪いので、穴を掘り、土を混ぜ土壌改良を行ってきました。機械に頼らず人力で行ってききましたが、土等の搬入やスコップでの穴掘り作業は、多くの人の協力を得ながら汗だくで体力を使い果たしヘトヘトになったことが思い出されます。

また、海からの潮風や飛砂を防ぐため、周囲に防風・防砂用にアキグミを植え、さらに海岸沿いの強風対策としてマルチングの藁が飛ばないように縄でしっかりとガードしました。

事前の準備は大変でしたが、参加された方が楽しんで植樹をしている様子から嬉しさを実感することができました。

クズの侵入を遮るためのつる切り作業や、潮風と塩害を防ぐために植えたアキグミの生長の早さに驚くとともに枝刈り作業は厄介なものでした。除草は定期的に炎天下になることもあって、熱中症対策等の体調管理に注意をして作業をしてきました。

2. 活動にあたっての工夫

宮城県ファンクラブを組織し、その役員を中心とした活動を行い、下刈や補植作業の日程を早めに設定し声掛けをしています。作業だけではなく会議も開催し、取組の振り返りを行うとともに、次年度に向けてのおおまかな年間スケジュールを決定し、意識づけを行いながら活動しています。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

平成31年の現地視察ではカシワが3 m50 c mを超えるまでに成長し、着実に成長していることを実感しました。今後も、年間2回程度の下刈や補植といった保育活動を計画しています。

また、生長を実感するための森の観察会を実施していきたいと考えています。

4. 海岸防災林への期待

少しでも自然災害から命を守ることを手助けできるように、土地本来の樹種で本物の森をつくり、海岸線に緑豊かな森をよみがえらせ、命を守る森の防潮堤を築いて防災力を高めていきたいと考えています。

そして、虫や動物が生息する森、憩いの場所となることを期待し、10年～20年先の海岸防災林が命を守る森の防潮堤に育つことを願います。

5. 活動状況



「いのちの森」の看板
(荒浜地区)



「いのちの森」の看板
(名取地区)



名取地区植樹
(平成 27 年3月)



名取地区植樹
(平成 27 年3月)



名取地区植樹(混植)



植樹祭(植樹前)の集合写真



除草前
(平成 30 年5月)



侵入したカシワ等
(平成 30 年5月)



除草・補植
(令和元年 10 月)



補植作業
(令和元年 10 月)



名取地区5年目
(令和元年 10 月)



名取地区5年目
(令和元年 10 月)

団体名 ゆりりん愛護会
社会貢献の森の名称 「ゆりりんの森」
活動目標 海岸防災林の再生と小学生対象の環境学習
活動年度 平成 25 年度～令和 2 年度
植栽地区の概要 箇所：宮城県仙台市若林区荒浜字谷地中林国有林 87 ほ 1 林小班 年度：平成 25 年度 面積：0.20ha 樹種：抵抗性クロマツ（1,000 本）
活動概要 ・東日本大震災に伴う津波で流失した海岸防災林の再生を目的としたマツ苗植樹と植栽地での小学生を対象とした環境学習を実施しています。 ・国有林以外においても宮城県と協定締結し、次の通り活動しています。 - 平成 26 年度 ： 0.4ha（名取市台林）（抵抗性クロマツ × 2,000 本） 〃 27 年度 ： 0.2ha（岩沼市寺島）（抵抗性クロマツ × 1,000 本） 〃 28 年度 ： 0.4ha（岩沼市寺島）（抵抗性クロマツ × 2,000 本） 〃 29 年度 ： 0.3ha（仙台市荒浜）（抵抗性クロマツ × 1,500 本） 〃 30 年度 ： 0.2ha（仙台市荒浜）（クロマツ × 1,000 本） - 令和元年度 ： 0.2ha（仙台市荒浜）（クロマツ × 1,000 本） ： 0.1ha（仙台市荒浜）（クロマツ × 500 本） ＜計 9,000 本＞

1. 活動への感想

これまで参加してくれた個人、団体からは、「植樹は海岸林の大切さを知るだけでなく、子どもたちの教育にも役立つものと思った」という好意的な感想を多数頂きました。また、植栽地が環境学習の場としても有効であることを、地域内小学校からの声であらためて認識しました。課題としては、被災した海岸地区の住民の参加が少ない事をどのような方法で解決していくか、そのための創意工夫が求められています。

2. 活動にあたっての工夫

仙台市荒浜植栽地でのイベント開催においては、仙台市の施設「海岸公園センターハウス」を植栽後の環境学習の場として活用しました。また、宮城県との協定箇所である名取市台林植栽地や、岩沼市寺島植栽地においては、現場を小中学生を対象とした環境学習の場として活用しました。それぞれの植栽地が防災林としての役割を果たすことに留まらず、貴重な環境学習の場として機能しています。

3. 今後の活動への抱負・活動予定

自分たちが暮らす名取市に隣接する仙台市、岩沼市の海岸防災林における植栽活動は概ね終了しましたが、これからは植栽した樹木の成長を見守りながら、それに応じた保育活動が欠かせなくなってきました。現場は、クズに加え、ハリエンジュやドクウツギなどの雑木たちが私たちの活動の妨げとなっており、これらの除去や成長した樹木の間伐も活動の一環として重要になってくると考えています。

4. 海岸防災林への期待

私たちが植栽したマツ苗は、行政から提供された抵抗性クロマツの他、ショウロ菌を根に接種した“菌付き苗”もあります。岩沼市寺島の植栽地（宮城県との協定箇所）では昨年春、ショウロの大量発生が確認されました。これが意味するものは、海岸防災林が本来の目的を果たしながら、地域住民がかつて生活を豊かにしてくれたキノコの収穫という、もう一つの役割も果たしてくれるという期待が持てるということです。

海岸防災林が防災の役割に留まらず、海岸全体の環境が地域住民の暮らしに寄与し、生きものたちが生を謳歌する場所になって欲しいと願っています。

5. 活動状況



〈仙台市荒浜植栽地〉
(仙台森林管理署との協定地)



〈ゆりりん愛護会の立看板〉
(設置:平成 25 年 5 月 26 日)



植栽初年度(平成 25 年 5 月)
(樹種:鹿児島産 5 年生クロマツ)



植栽(平成 25 年 5 月 12 日、26 日)
〈仙台市荒浜植栽地〉



〈ボランティア団体による植樹〉
(平成 25 年 5 月 12 日)



〈地域内の親子による植樹〉
(平成 25 年 5 月 26 日)



荒浜植栽地（令和3年2月18日）



＜荒浜植栽地（平成25年5月12日～26日）＞



＜平成25年5月12日＞



＜平成25年5月26日＞